

平成 28 年度 平戸市地域審議会議事録

日 時：平成 29 年 3 月 29 日（水） 午前 10 時～

場 所：平戸市役所 3 階大会議室

出席者：会 長 黒崎洋介、副会長 木村孝市

委 員 前川栄治、川久保喜市、寶亀巡幸、福田詮、松口茂生、福海晶子、長村暁、
里崎美彰、今川亮生、赤木志保子、上田正子

事務局 総務部長 松田隆也、地域協働課長 鴨川恵介、
協働交通政策班長 江川佳徳

企画財政課長 小出圭治、企画財政課企画統計班長 藤山修一

○協働交通政策班長

皆さまおはようございます。まだ、2 名の方が見えられていないようですが、只今より、平成 28 年度 平戸市地域審議会を始めさせていただきます。開会にあたりまして、黒崎会長よりごあいさつをお願いいたします。

○会長

皆さんおはようございます。委員の皆さまにおかれましては、ご多用の中、お繰り合わせいただき誠にありがとうございます。皆さん方も既にご承知のことと思いますが、平戸市地域審議会は、合併前の市町村の区域を単位として合併後も住民の声を市の施策に反映するため、地域住民の声を招集する機関として設けられ市の諮問に応じ審議・答申を行っているところでございます。

本日は、この後、事務局より第 2 次平戸市総合計画について説明をしていただいた後に皆さま方からそれぞれの立場でご意見・ご質問をいただきたいと思いますのでよろしくお願いたします。以上、簡単ではございますがあいさつとさせていただきます。よろしくお願いたします。

○協働交通政策班長

ありがとうございました。はじめに、今回、委員の変更がなされておりますので、ご紹介させていただきます。南部地区区長連絡協議会会長として選出されておりました下川幸男さまが嘱託員の任期を満了されたことにより、川久保喜市さまに変更になっております。ご紹介させていただきます。

○委員

よろしくお願いたします。

○協働交通政策班長

あと、市の方にも人事の変更がっておりますのでご紹介させていただきます。まず、総務部長の松田総務部長でございます。

○総務部長

松田です。よろしくお願いいたします。

○協働交通政策班長

地域協働課長の鴨川課長でございます。

○地域協働課長

鴨川です。よろしくお願いいたします。

○協働交通政策班長

本日の地域審議会でございますが、出席者は13名でございます。

地域審議会の設置に関する協議書第8条第4項の規定により、過半数に達しておりますので、会が成立している事を宣言いたします。

それから、議事録作成のため、本会議の会話を録音させていただきますので、ご了承いただきますようお願いいたします。

それでは、地域審議会の設置に関する協議書第8条第5項の規定により、「会議の議長は、会長をもって充てる」となっておりますので、これからの進行を会長のほうにお願いしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○会長

はい。それではご指名でございますので、本日の進行を務めさせていただきます。

まず、最初に本日の議事録署名人を決めたいと思っております。本日の議事録署名人は、松口委員と上田委員にお願いしたいと思っておりますが、皆さまよろしいでしょうか。

(異議なしの声)

それでは、松口委員さん、上田委員さんよろしくお願いいたします。

それでは、さっそく本日の議事に入ります。「第2次平戸市総合計画の策定について」企画財政課より説明をお願いします。

○企画財政課長

企画財政課の小出と申します。今日はお時間をいただきましてありがとうございます。平

戸市の総合計画につきましてはご説明させていただきたいと思えます。座って説明いたします。本市の総合計画につきましては、合併後の平成 20 年から平成 29 年度までの 10 年間の第 1 次の総合計画が策定されております。平成 30 年以降も第 2 次の総合計画を策定することとなる訳でございますけれども、その準備段階としまして平成 28 年度より、昨年度より条例を作りそれに基づきまして審議会を立ち上げております。21 名の委員さんにご就任いただいているところでございますが、この地域審議会からも今川委員と上田委員に総合計画の審議会にご列席いただいているところでございます。昨年に第 1 回の総合計画の審議会を行っているところでございまして、その後、起草委員会というものを作っております。この総合計画は、10 年間の市の最上位の計画となるものでございますけれども、その中で三段階のピラミッド型になっているところがあります。一番上に基本構想というものがございまして、詳しいところは後ほど担当の方より説明させていただきますけれども、一番上の基本構想が議会の議決事項になっております。この中の基本構想、10 年間の平戸市の考え方を整理するものでありますけれども、その中に各地域エリアごとの目標、プロジェクトを作ってはいかかかと議会での一般質問がございました。複数の議員からもご指摘いただいたところでございますけれども、それに基づきまして答弁としましては、前向きに検討したいという過去の経過がございまして、それにより 3 月に各地域の協議会にも出席をさせていただいてきております。大島、田平、生月の 3 ヶ所とも終わっておりますが、本日は、平戸市地域審議会にもお時間取らせていただきましたけれども、平戸市の審議会の中では、エリアがあまりにも大きいものですから、北部・中部・南部、この 3 ヶ所の地域に分けて、この 3 地域にかかる地域目標、地域プロジェクトを作りたいと考えております。他の 3 地域につきましては、それぞれ協議会がございまして、まとまっているところが既にございます。また、あわせて皆さまご承知かと思えますが、まちづくり運営協議会というものが各エリアで作られてきております。そういう作られてきたところに関しましては、地域の目標なり方向性が示されているところもございまして、まちづくり運営協議会のスローガンなどをベースにしましてそれで作り上げていくという手法をとっております。

この平戸島の方を 3 地区に分けるわけでございますけれども、例えば南部地区につきましては、志々伎、津吉、野子が、まちづくり運営協議会が出来るなど進んでおります。また、最近の話では、中津良地区につきましても作っていくという方向性が示されたと聞き及んでおりますけれども、また、中部地区におきましても根獅子地区及び紐差地区において準備が進んでいるところでございます。あとは北部の方が全然進んでいないところがございまして、ご存知のように既に度島の方は実績を積み重ねているところでございます。

この中で、皆さまにご説明したいのが、この 3 つの地区に渡る目標及びスローガン関係を作っていくご協力をいただきたいということでございます。今、申し上げましたとおり、北・中・南では、まちづくり運営協議会の設置状況が全然バラバラでございまして、そこで私どもとしましては、区長会の皆さま方も北・中・南で組織があらうかと思っているんですが、その辺との連携も踏まえてこの 3 地域での地域目標をお作りいただきましたと思っております。

そこで私たちも一緒に入って 3 地域ごとの目標を作ることにあたってご提案をさせていただきながら、全部丸投げするという気持ちはありませんので、この総合計画の 10 年間の目標として、3 地域の目標を作っていたいただきたいというお願いをするものでございます。それでは今から詳しい話をさせていただきますので、お配りしております資料に基づきお話をさせていただきます。

○企画統計班長

失礼します。企画財政課の藤山と申します。よろしく申し上げます。私の方から資料に沿って説明させていただきます。座って説明させていただきます。

○会長

その前にいいですか。今、お話がありましたけれども、失礼しました。私の見間違いで企画課ではなくて企画財政課でございますので、訂正させていただきます。なお、会議録作成の都合上、ご意見、ご質問等があられる方は、ご自分のお名前を言われて、手を上げていただき、こちらから、お名前をお呼びしてから、ご発言いただきますようお願いいたします。

○企画統計班長

お手元の資料、パワーポイントを先に送らせていただいたところですが、それに沿って説明させていただきます。P3 の方をお開きいただきたいと思います。課長が今説明したところで重複する部分もございますがご了承いただきたいと思います。まず、総合計画とは何ですかというところを P3 のところに書かせていただいております。平戸市のまちづくりのための総合的な指針ですということでありまして、この資料の方には、例えば、農林であったり、水産であったり、福祉であったり、いろんな計画がございます。また、企画財政課にあっても昨年度、平戸市総合戦略ということで人口減少に特化した計画を作っているところですが、こういったところを網羅した最上位の計画ということでございます。先ほど課長からもありましたとおり、この総合計画というものは 3 段階の階層で、P3 の上の方ですけど、ちょうど P3 の上の方のところでございますが、一番上に基本構想、真ん中に基本計画があって、一番下に実施計画と、こういう三段階の階層になっているものでございます。

1 回目の総合計画はこのような形で約 P170 あるのですが、そういうボリュームで作られているのですが、こういった冊子になるのは基本構想と基本計画の部分がこのような冊子になっているところでございます。今、説明した P3 の下の段の P4 のところでございますが、基本構想という部分ですが、平戸市政の指針となるべきものですが、平戸市があるべき姿、平戸市をこういうふうにしたいんだというところをうたいこむところでございます。真ん中の基本計画、こちらはあるべき姿を実現すべき施策を体系的に示すような形になっているところでございます。一番下の実施計画でございますが、基本計画を計画的に実施するものでございます。具体的な事業をここに掲げている形になっているところでございます。

次の P5 のところでございます。計画の期間ということで書かせていただいています。第 2 次の総合計画は、平成 30 年度から平成 39 年度までの 10 年間の計画となっております。基本構想につきましては、今、言いましたとおり平成 30 から平成 39 年度の方針であります。基本計画というのは、やはり時代の流れであったり、色んな住民の変化というものがありますので、前回は基本計画も 10 年間の通しだったんですが、今回は、前期と後期に分けさせていただきたいと考えております。今回、今年度までに作る計画については、前期計画というふうに考えております。また、実施計画については、毎年、庁内の方で実施しているものでございます。下の段、P6 のところでございますが、第 1 次総合計画は平成 29 年度まででございました。今回は、平成 30 年度から平成 39 年度までの新たな指針として第 2 次総合計画を策定します。策定にあたりましては、第 1 次計画の検証、あるいは評価を行いながら次の計画に繋げていくという形をとっています。

P8 でございますが、総合計画の策定体制ということで、資料の中心に書かせていただいております平戸市総合計画審議会でございますが、課長からもありましたとおり 21 名の委員さんで構成をさせていただいております。地域協議会、地域審議会、市民公募、こういった団体と大学教授などの学識経験者で組織をさせていただいております。先ほど、ちょっと話がありましたが、この総合計画審議会の中で、第 1 回目の時だったんですが、基本構想を作るにあたって、21 名の委員さんにお集まりいただくというのが日程的に難しいという部分と色んな議論が必要だということで、起草委員会というものを立ち上げようということで 6 名の委員さんでこの中から立ち上げさせていただいております。本日の今川委員さんもこの 6 名の内のおひとりということで参加いただいているところですが、これまで 3 回の起草委員会を開いている状況でございます。この総合計画の審議会を中心としまして、市民参加ということで、本日の地域審議会や地域協議会のお話であったり、市民アンケート、これは昨年 10 月に実施をいたしました。また、新年度に入りましたらワークショップということで各地区をまわらせていただきたいと考えているところです。また、庁内組織としまして企画委員会ということで部長級の組織を立ち上げ、また、課長クラスということで検討委員会ということで、今度、立ち上げる予定なのですが、他の地域協議会で説明をさせてもらったときに若手の意見をどこで集約するのかという意見もいただいたんですけど、当然ながら市の総合計画を作るにあたっては、市の若手職員であったり、班長、係長クラスの意見を活用しながら作っていく形になりますが、当面の意見の集約を検討委員会で行うというのを考えておりますので、上の者だけで作るというものではなくて、それぞれのセクションで意見を吸い上げていくという形を考えております。この総合計画審議会の方では、いわゆる基本構想・基本計画を作るんですが、基本構想にあつては条例によりまして市長を通じて市議会にも提案をして議決をするという形になっていきますので、そういったことを図の方に表しているということでございます。

この基本構想の策定についてということで P10 のところでありますが、策定までの流れということで書いております。先ほど申し上げたとおり、起草委員会を設置しております。

9月26日の審議会の中で設置をするということで決定しましたので6名の委員さんで構成しています。起草委員会をこれまで3回開催しておりますが、協議の時間を要しているということもあって、2回目の審議会も今開けていないという状況ではありますが、鋭意、調整をしているところでございます。ちょうど真ん中のところでございますけれども、地域協議会、審議会に地域プロジェクトを含め内容等を説明させていただいているところでございます。この辺も踏まえまして、起草委員会では骨子案を決めまして審議会の方で諮るような流れで進めさせてもらっています。その後、パブリックコメントを実施して、市議会の方に進捗報告を行い、議案として上程していきたいと考えています。策定のポイントとして、大きくですけども、次の10年に向け大きく飛躍するため、躍動感あふれ実効性がある内容にしなければならないと共に、市議会の方からも、また、委員の皆さんからもあったのですが、やはり興味を持って読んでいただきたいという内容にしてもらいたいという意見がありましたので、そこを踏まえて策定をしていきたいと思います。また、真ん中のところでございますが、広く皆さまのご意見を聞かなければならない、そこを踏まえて策定をするということでございます。また、最初に言いましたが、各課、総合戦略など色んな計画がありますのでそこを網羅して作らなければなりません。また、地域の民意性・独自性を活かしていくために地域別目標・地域別プロジェクトという風にさせてもらっているのですが、それを設定したいという風に考えております。具体的な構成についてですが、基本構想の具体的な構成ということでP12に書かせていただいております。大きく言いましたら、下のところ書いているのですが、市の現状と課題、総合計画はなんぞやということを書いてから基本理念というところに移っていたんですが、先ほど言いました、読みやすい、分かりやすいということ踏まえまして、まず最初に、私たちは平戸市をこういう風にしたいんだ、こういう形にもっていききたいんだというところを先にうたいたいと思います。その後市現状や課題を整理して基本構想というものを形づくっていききたいということで、起草委員会でもそういったことで了解いただきまして、今、その方向で策定を進めているところでございます。

最後でございますが、P13の地域プロジェクトということで書かせてもらっております。市内の各地区の独自性を活かすために、各地域での目標設定といいますか構想を掲げて、その構想に基づいた計画であったり落とし込んでいきたいと考えております。本日のような地域審議会の皆さまのご意見であったり、アンケートなども実施しております。その内容、あるいはそれぞれのまちづくり運営協議会が立ち上がって計画が出来ているところもありますので、計画の内容は当然外せませんので、そこを踏まえた形で地域づくりプロジェクトというものを考えていきたいと思います。以上、雑ぱくであります。私からの説明とさせていただきます。

○会長

ありがとうございました。只今、説明がありましたが何かありますでしょうか。

○委員

P10の策定までの流れで、下の方にパブリックコメントを実施するという事で策定のポイントの中に広く市民の意見を聞き策定をしますということで載っていますが、どういう風な聞き方をやりたいと考えているのか。

○企画統計班長

先ほど言いましたところになるんですけども、昨年10月に市民アンケートを実施しました。また、本日のように地域審議会のように地区の代表の方との協議、或いは、ワークショップを新年度に開催するようになっています。それについては、区長便等を通じてそれぞれの地区に周知を図りたいと思っておりますが、そういったところで市民の方の意見を聞きまして基本構想であったり、基本計画について反映をしていきます。当然、各課にも内容については繋いで可能な部分とどうしても難しいという部分が出てくると思うんですが、そういった部分を踏まえてやっていきたいと思っております。

○委員

昨年の10月に実施したアンケートの内容は。

○企画統計班長

昨年は、総合計画のアンケートについては、一般の方々と中学生と高校生にさせていただきました。一般の方々については、2,200人の方々に郵送をさせていただいております。その内容については、平戸市のまちづくりに対する満足度や重要度、平戸にはこういったものが重要だよというものを記入してもらうこととしています。こういった満足度、重要度については、前回計画でも行っています。聞いた項目については、内容はあわせています。というのは、やらんば指標というのをまちづくりの指標として行っているのですが、この推移、満足度があがっているのか下がっているのかというのを確認するために内容をあわせています。また、自由意見として平戸市のまちづくりに対する意見をいただいているところです。

○委員

今、2,200人ということだが、実際、回収できた（アンケート）のはいくら。

○企画統計班長

2,200人分お配りした中で、回答は692人でした。回答率は、31.5%です。高校生については、無作為、一般もそうなんですが、無作為に送らせていただいているのですが、高校生については、69.0%です。また、中学生については、3年生ということで限定させてもらって、教育委員会やそれぞれの中学校にもご協力いただきまして、約300人の方に配布し、ほぼ回収できた状況です。

○委員

先ほど、地域協議会など色々立ち上がっているの、起草委員会、まちづくり協議会、そういうすべてにおいて、一律に意見を募って作成するということだったんですけど、どのような方法で、この平戸市にいきわたるように広報するのでしょうか。

○企画財政課長

この地域別の作り方なんですけど、例えば南部地区で申し上げますと、既にできあがっている志々伎地区とか津吉地区とか、野子地区、中津良地区は今から作るんですけど、それをまずひとつに集約します。できあがった物を。地域ごとの決められた方針です。それが小学校単位ですよ。それをかき集めまして南部地区全体にまとめられるような。まず、キャッチフレーズと申しますか。ひとつのタイトルを作ります。それで一行だけではわかりませんので言葉として例えば10行ぐらい400字ぐらいで具体的な方法にふれていくというふうな作り方をしようと考えています。それを取りまとめていくというのが大変になってきますので、そこで私たちが入っていかうかと考えています。あと、運営協議会だけでは困りますので、区長連合会とか地域別のブロックがありますので、そういう方々にも当然下ろして、そういう意見の集約を行うというのがひとつと、あとはワークショップというのをエリアごとにしようと思っているんですけど、その聞き取り調査で上がった項目も当然吸い上げていかなければなりませんので、それも反映させていかなければならない。ただ地域別目標は、細かくたくさん書くというよりも大きくとらえた地域の方向性をつくりたいと思っておりますので、ほぼ具体的なことにつきましては、構想の下にある計画のところの方に盛り込んでいくという考え方をしています。ですので、これからワークショップと地域を進めております運営協議会の資料を私共でとりまとめていきながら、ある程度の形を作りまして、それを北中にお渡しさせていただいて、それをベースとしまして、私たちがこのとおりにやれというつもりはございませんので、それをたたき台として北中南で協議をしていただいで最終的に了承をいただいでから、基本構想の最後のページになるんですけども地域別プロジェクトとして記載をさせていただいたと考えております。

○委員

スケジュールというのはあるんですか。

○企画財政課長

本来は、最初、6月議会で説明しようと考えていたんですけども、基本構想の関係で起草委員会を作ったものですから、少しスケジュールが遅れております。ただ、遅れておりますけれどもあせって作る気は全くありませんので9月議会の方にずらそうという予定の変更をしております。

それで逆算していきますと6月には、ほぼ北中南、田平も生月も大島も同じなんですけど

も取りまとめて、それで総合計画の起草委員会、審議会にもこういう形で作りましたというご提案をさせていただきたい、ですからあまり時間的に余裕がないのは事実でございます。5月中には完全に作り上げたいと考えておりますので、地域によっては、総会が4月、5月に出てくるものと思うんですけど、そこでも区長さんたちにお話に触れていただければと思います。以上でございます。

○委員

地域的に目標を作るというのは良いことだと思うんですけども、まちづくり協議会は、まだ進行形のもの、手をつけていないものがあるという話でしたが、そういった地域については、どういった段取りになるんですか。

○企画財政課長

先ほどの繰り返しになるんですけども、言葉に出せるものについては全部拾ってきて、こちらの方で骨格を作って提案したい。無いところにはゼロからのスタートになりますけども、例えば、紐差、中部地域だったら、今、小学校区が2つありますよね。紐差小学校区と根獅子小学校区。この2つは違うと思うんですよ。特に紐差の方は広がっていますので、合併していますから、そこらへんは行政の方で中部地区の産業構造とか、そういったものを踏まえた上で、例えば、文化的なものとか、そういったものを中部地区に限定して私たちの方でたたき台を作ります。それを中部地区だと、区長連合会とかありますよね。今、組織が出来上がっていませんから。まずは、区長会の方にお話をさせていただきたいと思いません。

○委員

そうなる、北部もそうなるんですよ。

○企画財政課長

そうなります。組織がありませんので。度島だけが北部は出来上がっておりますので。

○委員

今、お話がありました各地区のまちづくりプロジェクトですね、いわゆるまちづくり協議会で策定した計画をベースに作りますよというお話、それはそれで良いんですが、まちづくり協議会で作っている計画というのは、まちづくり協議会でできそうなものを中心に作っているんですね。例えば、これに加えて、農業団体とか漁業団体で主体的に取り組むものについては、以外にはずれている可能性もあるので、そういったものも十分、農協さんや漁協さんの意見を聞いて総合計画としてまとめた方が良いと思いますので、まちづくり協議会の計画をより集めるだけでなく幅広く意見を集めた方が良いと思っております。

○企画財政課長

そういった方向で、当然、おっしゃるとおりでございまして、素案は私たちが作成させていただきますが、押し付ける気は全くございませんので、それを見た上でおっしゃるような運営協議会で作っている分にプラスアルファできる部分も提案させていただきたいと思えます。

○会長

〇〇委員さん、〇〇委員さんよろしいですか。

○委員

はい。

○委員

地域コミュニティ、津吉の方でも立ち上がりまして審議委員に入っているんですけど、今、立ち上がったばかりなので、校区内に住んでいる住民の方が、まだ内容がわからないという人が殆どなんですね。私たちは中に入っているのだからわかるところなんですけど、殆どの方が何をしているのかわからないというのが意見なんですね。だから如何にして地域の住民の方にわからせていくかというのが、みんなが如何にそこに入ってくるようにするのか、私たちが総合計画と地域審議会と地域コミュニティと3つの委員になってますけど、何かごちゃごちゃして自分でも整理がつかないんですけど、地域コミュニティというのが地域の根底にあって、審議会がありますが、総合計画というのがあって下におりてくるという感じで思っと思って良いんですかね。それでそういうことがあったというのをわからせていくかということと、巻き込んでいくかというのが一番の問題だと感じているところなんですけど。コミュニティではフェースブックで発信をしたりとか、フェースブックしている人はそういうことをしているんだということを知るんですけども、今、情報が1回でましたね。それを読んで自然とわかっていくとは思いますが、今、何をしているのかなと思っている段階なので。そこで発信をどうしていくかということ少し…。アンケートなどもされているので良いかなと思うんですけど。そこが一番問題だと感じているところです。

○企画財政課長

おっしゃるように隅々の方々まで知っているかという疑問な点はあると思っております。私どもも多くの市民の皆さまに声をあげていただきたいというのも当然でございます。それは個人によって色んな要望とか考え方があろうかと思うんですけど、私たちが望むのはアンケートはとつても5割にしたいくないんですね。やはり重要なものを作るものですから。先ほど申しましたワークショップというのを2回しようと思っております。4月から取組をしようと思っておりますので、できる限り参加がしやすいような形を考えておりますけ

れども、普通、そがんとやったらやぐらしゅうていかんばいとか、硬い話ねということがあ
りがちだと思ふんですけども、できる限り色々な方にお声かけをしていただいて、私たちも
広報はしていきますけども、正直、本当にたくさんの方に来ていただいて自分達が参加しよ
うと思えば気になってくるでしょうし、意見を言いたいという気持ちになってくると思
うんですよね。それで地域のことも考えなおす良いきっかけづくりになると思っております
ので、そういった形でワークショップを2回行って、より地域の声が反映された計画となる
ように作りあげをしたいと思っているところでございます。

○委員

度島は、まちづくり運営協議会が3年たっているんですけど、まちづくりで何をやってい
るのかというのはまだまだ浸透していないと思うんですけど、何かこういう問題があると
いったときに、丸投げというか、まちづくりがやればいいじゃないといった考え方があって、
ワークショップをやるにしても、地域の人にもまちづくりがやればいいじゃないと丸投げ
される可能性があると思うんですけども。

○企画財政課長

このまちづくり運営協議会は、小学校区をベースにした作り方ですね。行政と地域が協働
して一緒にやっていきたいと思いますということで進んでおります。この総合計画は具体的な事
案に対して、役割分担でこれはこっち、あれはこっちという風にそれぞれの方向性を決める
ものではなくて包括的な考えや方針を決めるものでございます。ですのでワークショップ
をするにしても何をやるにしても総合計画の中で線引きをはっきりすることはございませ
ん。こういった要望があることが分かれば、それを吸い上げて行政の運営にプラスになって
いくような情報を集めまして、こういった問題が生じているということを担当課に下ろし
ていくというような対応を行っていきますけども、総合計画を作る上ではそういったこと
です。

○企画統計班長

今のワークショップの関係なんですが、この間も業者との打合せをする中で、ワークショ
ップのやる目的というか目標というか、各地区の現状というか課題を把握をして、その地区
の方向性等を考えていったらどうかということを考えていまして、具体的には行政がここ
までしようとかいうものは考えていなくて地域として方向性をどのようにしていくかとい
うことを考えています。地区によっては、例えば、生月とか大島では、まちづくり計画とい
うのが出来ていますので、それぞれの現状とか課題というのはまちづくり計画の中に出て
いますので、そこを補完した内容で進めていこうかということで内容をつめていっている
状況です。まちづくり計画ができているところは、2回ではなくて1回でもいけるのではな
いかと考えているところです。

○委員

今、地域で無関心だという意見も言いましたけど、例えば、どんどん高齢化していく中で一人暮らしの老人を外に出しましょうということで色々な組織が立ち上がっているんですね。そうすると老人会があっけいいきサロンがあっけ、なお、別の組織が立ち上がろうとしているんですね。何かそういう整理をどのようにしているのかなというのもあるんですね。あっちでリーダーがいて、こっちでリーダーがいてそれを地域コミュニティがどう関わるかとか、そういうのも地域コミュニティでしていいんじゃないかと思っている人もいますし、あちこち市の方から指導が入ってくるんですね。老人とか子供と一緒に話す場を設けましょうということで、でもいきいきサロンがあっけそこにいけばいいじゃないですかというといくら立ち上がってもいいんですよと、こっちにいけない人はこっけちにいくし、月に3回あっけたら3回いけるし、こっけちは150円お金がかっけ、こっけちはいらななとかが出てきているんですね。あっちにいけば有料、こっけちにいけば無料、そういのをまとめて地域コミュニティでしてくれればいいのになという意見もあっけ、そういうところを市の方でどういう方針で考えているのかなと思うんですね。老人会も一生懸命しなさい。いきいきサロンも一生懸命しなさい。また、別の会議も立ち上げて独居老人も何とかしなさいとかいう。そこにも助成金を出しますよということがあっけ。多分、地域ではあっちには行くけど、こっけには行くとか、そういうこともあるとかいうのがあなるので、市の基本的な考えはどのようにしているのかなと思うことがあなんですね。老人会を中心にしていけばいいんじゃないかというのもあり、いきいきサロンがあなると老人会が栄えななとか、昔、青年団とか婦人会とか色々あっけ、まとまって活動していたので地域も動いていたと思うんですけど、今、そういのが無いために地域コミュニティを立ち上げて何とかしていこうというのがあると思うんですけどそういう所の考えをどう整理していいのかなと思ったりするんです。

○企画財政課長

難しい質問ですけど。確かにおっしゃるように福祉の方で高齢者の計画作ったり、障がい者の計画作ったり、今度、4月から介護の関係で要介護の4と5が介護保険から外れて変わってくるとか、そうなっけるとそういう人たちをカバーするとなると国の方では、地域でそういう計画作ってカバーをしなさいとか、どんどんと厚生労働省からくるとか何からくるとかなっけくるんですね。無理こりどうにかしなななりませんので作りますけど、今、言われたことはまさしくそうなんですよ。市の方針とは言いがたいですけど、地域のまちづくり運営協議会が今行っけた3つの組織をコントロールしていくというのが望ましいと思います。そうしていかなないと連携が取れななっけくるんですよ。また、メンバーて決まっているじゃないですか。地域、地域で。被っけくるんですよ。こっけにも入り、あっちにも入りという具合で。それをひとつにするのが理想的なんですけど。例えば、担当課にしてみたらAさんに頼んだらこういう人が集まると、BさんだっけたらBさんのグループじゃないんですけどそういうものになる。そういうことで連携が取れななっけくる

というのが想定されるんですけど。やはり、これから人口減少が間違いなくなっていく中で、そういったことはなしにして、統一的にエリアごとにやってそこにぶら下がる形が理想的だと思います。答えになっていませんかもしれませんがそういうことです。

○会長

私からいいでしょうか。いきいきサロンと老人クラブとのいろんな問題があるんですけど、いきいきサロンに私も行く場合に、老人会には出席しないでいきいきサロンにはみんな行くんですね。いきいきサロンとか介護予防教室はですね趣味の会みたいないわゆる健康教室のような寄り合いなんですね。だから老人クラブとか女性の会とかはまちづくりの会と性質が違うんですね。それで皆さん方も老人会には行っていただいて結構ですと、それで老人会の方にも健康維持とかの観点からもいきいきサロンにもどうぞおいで下さいとそういう言い方をして、被ってですね。先ほどもおっしゃったように。地域審議会も色んな地域の会とかの話と切り離してみなさん方にはお考えいただきたいと思うんですね。それで老人クラブに参加者が少ないというのは、結局は老人クラブに魅力が無いんじゃないかと思ってしまうんですけど、私共としてはそういう説明をさせていただいておりますので。

○委員

私、中野の方に所属しているんですけど、今、中野は鄭成功を活かしたまちづくりというのがありますが、それで鄭成功に参加したりしているんですけど、そういったときに方向というか鄭成功があるのが川内だけというような、広報は中野全体ということですけども、殆どよその地区は関係ないという風になっているんですね。婦人会で話をしても私たちのところには何にも話が無いよという感じで、婦人会に入っているから知っているということ聞くんですね。だから広報というか、皆さんに参加していただくという気持ちを持っていただかないと中々じゃないかなと思うので、広報もしっかりやっていかなければいけないんじゃないかなと思っております。

○委員

鄭成功の件ですけど、北部の区長会は中野と一緒にだから一緒に行動しようということで鄭成功についても一緒に頑張っていますので、そういうことで理解しておいて下さい。

○企画財政課長

合併して10年をこえておりますけども、最初は自分たちの町がどうなるかという不安があったと思うんですけども、今後、20年に向かっていきますので、今からは行くことを考えております。しかし、例えば南部の人が田平に行くかというそれは少ないですけども情報的には私たちもずっと流します。色んなことをするたびに広報ひらどに載せたり、ホーム

ページに載せたり、色んな手段はとりますけれども、中々、見てないという話をよく耳にします。回覧板でもはさんでいるものは見ない人が多いんですね。全世帯配布にすれば残るから見る可能性は高いんですけど、それでも周知徹底になるのかなという疑問は持っております。あと、お金の問題も出てくるんですね。やはり世帯配布になると何千枚もなってくるので、そして各課も一生懸命、地域行事とか周知するんですけど、正直、届いていないというのが実態で、それをどう改善していくのかというのが課題ということで考えているところでございます。

○会長

議題のですね。この第2次平戸市総合計画の策定についてのですね、先ほどの事務局からの説明に対しての質問をしていただきますようお願いいたします。

○委員

この10年後のことを今から考えていくにあたって、この前にした基本構想から10年を振り返ってみて、平成29年度で今の計画案というのは終わりですよ。この10年間に相当な案が出たと思います。また、相当な人の数が亡くなったと思います。だから、今度、新たに10年の計画案を行うにあたって、企業であれば、普通は、ここまでのぞという計画を立てて逆算しますよね。今、行政の話聞いてると、今回、各部門でまだ意見がまとまっていない。ということは担当者の人が3年で1回代わりますよね。ということは3回代わったら次の案は終わりですよ。ということは3年ぐらいで見直ししていかうという結論案ということを考えていかなければならず、仮に銀行でお金を借りたら3年なら3年で返済するというのが基本ですよ。それでここまでのことをいつまでにしようという計画を立てますよね。今、聞いている話はざくばらんな話で切り口は大きいですけども、前回から基本的に変わったことってあるんですか。

○企画財政課長

まず、人口ですけども、当然、合併したときに40,000人をこえる数値となっております。それが今、近々の数字では32,000人台になっております。また、国勢調査でも平成17年の10月1日にしましたけれども、国の人口の研究者が出している数字にプラス下げる人間だったんですけどもほぼ予測通りに来ているところでございます。合併して第1次の計画を作ったときに平成29年度の人口を33,333人という大目標を立てておまして、それが先ほど言いましたように32,000人ということでだいたい1,000人くらい目標に届いていないという形になっております。一番大きく変わってきたのは、UIターンとか他の地域から来てもらったり、そういう移住定住に関するところが、1次の計画時よりも段々とウエイトが高くなってきた、やはり人口減少対策にはなるんですけども、そういった投資の仕方が変わってきております。特に、昨年、総合戦略というのを5年間の計画を作ったんですけども、そ

それは平成31年度まであります。それには具体的な数値目標が全部入っているんですね。今、毎年、後追いをしています。例えば、100人の雇用をするということだったら、今、3年目で40人だったということであれば達成は難しいなとか、試行錯誤して変更も加えながらやっています。具体的な数値目標というのが、今、あるんですね。こういう計画を作るときには、前の10年の時にも60代の数値目標がございました。最終年度が平成29年度になりますので、最終的に評価しますけれども、旧年が終わっているため、それを見ながら新しい総合計画数値にしようと思っております。後は、大きく開いたときの微調整をするために5年間の前期と後期の計画に分けるんですけど、そういった対応の仕方をしようと思っております。また、計画には、PDCAとして色んな評価を繰り返して修正していきなさいというのが今の時代でございますので、これからは投資を増やしたり、他は達成ができたので他の支援の方に変えていこう、別の施策に転換していこうと考えています。

○委員

今まで、都市計画でもマスタープランというのを作っていたんですね。平戸市のマスタープランの中のまちづくりの状況というのは、作った時点と比べてどうですか。状況は全然違うんじゃないですか。

○企画財政課長

都市計画関係でいいますと、景観条例とかあり皆さまも感じていると思いますが、旧町部が和風というか瓦屋根で漆喰を使ったり、ダークブラウン色を使い、イメージを統一したまちづくりを行っております。悲しいことに駐車場が増えてきているという現実があります。

また、店ごとに看板を出すのに、そこにマツモトキヨシがありますよね。あそこも最初出てきたのは却下されたんですね。この色合いはダメですと条例で定められてますからということで、そういう制限があることでケバケバした色合いは減ってきて、新しい家もピンク色の外壁とかは使えませんので、イメージ的にいえば、この北部地域だけでいうと良い方向に変わってきているとは思いますが。ただ、市全体でいうと一概にも言えないところはあるとは思いますが。

○会長

〇〇委員、少子化によって保育園・保育所が閉園、閉鎖になったり、学校が統合になったりしていますけれども、保護者会の側から何かご意見があるんじゃないですか。

○委員

今、課長がおっしゃられたように、平戸市総合計画の中でもたくさん戦略会議だとかも含めて総合的に計画するのが、この計画の根幹だと思います。人口減の中で子供達も少なくなってきた、実際、会長も言われたように統廃合も進んでいる。実際、この中のメンバー

でも実際、行革にも入っている。私も入っていますけど。その中で意見も言っていますけども、そういう中での意見を強く反映してもらいたいという意見もあっていきますし、一番重要なのは、地域の住民の声と申しますか、十分に反映させていただきたいと思っております。また、先ほどお聞きした限りではタイトなスケジュールになりつつありますので、2回ぐらいの住民説明会等で全てを把握できると思いませんけども、そこは親切、丁寧に対応していただいて、より多くの方々がワークショップにきていただく仕掛けも必要なのかなという風にも思いますし、上田委員さんもおっしゃったように、どんなやり方が、地域に、色々、地域に言われて大変でしょうけど、ある程度確認したものでワークショップを開いていただければと思います。平戸市総合計画の2次については、全然、やる方向で問題ないと思っておりますけども、総合計画の事務局は企画財政課になるんですかね。課長、班長がしっかりハンドリングして、大変だとは思いますが、この地域審議会の中で、平戸市総合計画について意見とか提案を出し真剣に考えてたことを反映させていただければと思います。何しろ地域の皆さんの意見を反映させていただいて、全ては無理かと思いますが、それをしながら進めていただければと思います。

○企画財政課長

おっしゃっているとおり 100%の意見を集約することは無理だと皆さんも思っているとは思いますが、ひとつの意見でも光る良い意見というのがあろうかと思っておりますので、私たちが気づかなかった点というのがあれば行政としてもうれしい意見となってきますので、今後の施策を作っていく中に反映できるようにたくさんの発言を集められるように、ワークショップでもこういうやり方をしますので、メモに意見を書いて誰が書いたとか責めることが無いような方式を考えておりますので、気軽に参加して、この際、言おうとか書こうという形の会にしていきたいと考えております。

○会長

○○委員さん。何か農業者の立場から何かご意見ありませんか。

○委員

色々、お話聞きましたけど、今、農協の理事もやっていますけども、地域の農業について、行政にも色々やってもらっていますけど、中々、反映できないところもあります。農民の意見とか漁民の意見とか色々反映していただけたら良いかと思っております。

○会長

○○委員さん。何か商工・観光関係で何かありませんか。

○委員

今後 10 年の平戸市総合計画の第 2 次計画ということで、非常に難しい問題ばかりありました。商工関係におきましては、平戸市外の資本、そして東京資本、大手資本がどんどん入ってくるということで、非常に不景気感が強いわけでございます。全体的に人口減少というのが具体的な数字であがってきております。私共、業界におきましても 2000 年にスーパードライが 6・3・3 の 20 本ケースで 1 億 8 千ケース売っていたのが、2016 年に 1 億ケース、約半分になったということで、商品の数字についてお話しすれば半分になった状況です。また、日本酒業界におきましても 3 分の 1 になった状況です。ピークも昭和 48 年に比べて 900 万本の日本酒を造っていたのが、300 万本弱になったということで非常に厳しい数字に表れているわけでございます。また、人口につきましては、40,000 人が 32,000 人ということで、やはり人口が増えているのは東京近郊だけだと、高校卒業したら全部、島外に行ってしまう、都会に行ってしまうところばかり、平戸市に限らずですね。だから、平戸ってというのは日本の西の端ですので、立地も悪いというのを再認識しているところでございますが、できるだけ平戸市民になって良かったと誇りに思うような行政の方針を示していただければそれが一番の財産になるんじゃないかと、基本構想で、是非、誇りに思われるような、自信に思えるような方向性を示していただきたいと思っております。

○企画財政課長

実は、今、先ほどもふれましたが、総合戦略というのも作っております、これの原資というのがふるさと納税なんですね。皆さまご存知のとおり、平戸市は全国トップクラスの納税額で寄付金をいただいております。それを原資としまして、色んな施策に充当しているんですけども、例えば、平戸牛の関係で言えば、増頭対策の上乗せ補助であったり、農業で言えば新規参入者への援助を行ったりとか、また、平戸市独自で保育料とかを安くしていたんですね、国の方針もあつたんですけど、2 人目からが 2 分の 1、3 人目が無料、それが 3 人目無料が、子供の数え方が小学生より下だったんですね。それを撤廃したんですね。大学生が長男、高校生が次男、6 歳が 3・4 人目になって、その人は無料になるんですよ。今、どうなるかという保育園なんか入ってくる子が増えますよね。だから保育士さんも足りなくなるという状況も出てきております。そういう状況で、特に福祉関係の仕事というのは、求人がハローワークにもものすごく出ているんですね。ところが全国で奪い合いなので、民間業者は欲しいんですけど来てくれる方がいない。今、江迎ハローワークで平戸管内の有効求人倍率が 1 割をこえているんですね。1 割をこえるというのはバブルの何十年ぶりらしいんですけど。それでも中々定着していかない。そういう方々を募集してもいない、子供さんたちに帰ってこいよとか言っていたきたいという話も良く聞くんですね。集める側からすれば、ところが給料が安いとか、田舎が嫌で戻りたくないとかいうのもございます。そういうことで、今、好景気ではないですが、一部の業界で言えば、ふるさと納税で昨年度で言えば 7 億 3 千万円のお金が事業者さんに渡っているんですね、今年が 5 億何千万なん

ですけど、それだけ末端の事業所さんの収入が増える結果になっています。また、設備投資をする時に補助金を出しているんですけども、1人雇用したら500万円の補助を受けられるとかですね、幅広く援助をしている部分はよくなってきています。また、ホテル関係、経営者が大きなホテルは替わっていったんですね。今、蘭風でもリフォームやっていますよね。今までボロボロだったホテルがきれいになっていって、旅行会社もきれいになったからお客さんを連れてきてくれるとかですね。そうすると当然、雇用にも繋がってきます。そういった今後の変わる要素、プラスの要素が結構あるんじゃないかと思っています。そういったことを含めて、今、〇〇委員さんおっしゃったような景気に絡むような施策を今のうちに投資をして、今、数値目標立てますけども、達成可能な設定をして、特に今、ふるさと納税での投資を単独で毎年やっているんですね。それを継続していって人口減少に歯止めをかけていく施策を作っていきたいと考えております。

○委員

結局、10年間、計画がたったわけじゃないですか。結局は、人口減少を止めるとなれば住みやすい、病院が充実しなければ人は住まない。職場がなければ高校生たちは出て行く。学校が無ければ子育ても出来なくなる。そのような状況に今なっていると思うんですね。今、目に見えていることですから、この学校問題、職場の問題、病院の問題、それにお金をかけて住みよい平戸にしなければならない。それに対して、ふるさと納税のお金を使えばいいと単純に思うんですけど。その辺はどうなのでしょう。この先、学校、職場、病院の問題は大きな問題だと、もし、観光客で引っ張るんだったら施設にお金をかけたり、バスを運行したりしてどんどんお客さんを連れてくるなど、具体的に人が住み着くものに対してお金をかけるべきじゃないですか。目に見えていることをなぜやらないのでしょうか。

○企画財政課長

目に見えているところが、私たちの周知のあり方に問題があるかもしれませんが、実際、かなりの数の事業、50以上の事業にふるさと納税の基金を使っています。

○委員

それを聞いているんですけど全然わからないんですけど。

○企画財政課長

個別の事業では、やっているんですね。私たちのPRの悪さもあるんですけども。それこそ保育から学校のICTなどタブレット関係の導入まで、住みよいまちのために、人口減少のために今は投資しています。今年度の予算も7億円ほどの基金を使って事業を展開しています。今後、平成31年度にひとつの目標がきますので、それに人口減少の目標値がありますので、それを達成するために今までに無いような投資の仕方をしています。ただ、ひとつ

ひとつの事業が市民の皆さんが分かっているのかということと分かっていないとは思いますが。

○委員

ふるさと納税がどのようにどれに使っているかというのは広報誌には書いてあるんですかね。何かお金を生む方法に投資をすべきじゃないかといつも思うんですけども。実際、南部に住んでいますけども、南部は、学校は無くなる。保育園も無くなる。どうやって人が住みたいと思うんですか。お金をかけて学校を充実させる。例えば、へき地保育所は4時までしか預かってくれないから、共働きするお母さんばかりだからとうとうなくなった訳ですよ。それが、へき地保育所が4時までしか預かれないんだという規定があるからみんなあきらめてますけど、それを改善して住みやすい環境に改善していくことが、今、必要なんじゃないですか。過疎化において、決まりがどうようりもと思うんですけど。

○委員

さっきから聞いているのは、答えなんですよ。10年前に計画立てたことに関して、今、〇〇委員が言ったように、あれがない、これがない、正に3ないと思うんですけど、今度の計画案は、実際、実行できていく、構想に書いてあるものではなく、もっと建設的に、必ずしていくというような感じでしないとさっきも言ったように10年前が40,000人でしたよね。現在が32,000人。ということで、あと10年したら24,000人ですよ。単純に。今後、24,000人になって、20,000人になったら、自分達も出て行きます。もう飯食えなくなると思う。今、新しい家を建てています。この先、何十年と住む気で建てています。本気でね。だからちゃんと言っていることであって、今、現状、32,000人、今後、24,000人になって、この24,000人が早く就職とかしていったり、今、うちの子供も来年には子供ができます。その子供が今言っているのは、家を建ててくれたけど、この先住むか分からない。病院無い、学校無い、自分達は住めないかもとはっきり言われた。実際に。本当に新しいところから来た人が家を建てようと思ったら簡単には建たない。あれがダメ、これがダメということで、そこに行政が力を入れないと本当に。本気で来た人は、新しい人は新築はできませんよ。まず、無理です。うちは、許可取るのに400万円から500万円かかっています。なぜかという、地すべり地域を全て県にまかせている。県に行ったら県が反対する。では、中古の家を買うとすると、リフォームをすることになる。しかし、お金が足りないから無理ですね。事業してお金持ってきた人でないと無理ですね。それか親から土地をもらった人。実際に自分は、ここに身よりもないし、親戚もなし、兄弟もないし、何にも無い状態できましてね。もう少し行政も前向きになって、是非、人口も24,000人以下には絶対にしないようにしないと、毎年、640人ほど亡くなっていますよね。2年で1,280人が減っていくというのはわかっているんですから。どうにかして平戸独自の政策を打ち出さないと役所の人も仕事なくなりますよ。ですから時間というのあまりないので、つめてつめて考えていくような政策を考えてください。賛同しますので。

○会長

時間の都合もありますので、できるだけご質問は簡潔にお願いします。

○委員

今の平戸市では、税金をとって、地域に住む住民を平等に見るというのは無理だと思うんですね。人口減少しているから。例えば、北部に住んでいる人と南の果てに住んでいる私たちの状況と絶対に違うんですよ。平戸市の税金で10年後、20年後に見ていける状況ではないと思うんです。南部地区なんかは、津吉なんかは空き家でゴーストタウンになりつつあるんですね。だから、平戸市を大きくどのようにつないでいくかという、北部は、特色を観光地、商業地として、中部は、農業をする人が住んでください。漁業は、南部に住んでくださいとか、漁業ということで食べていこうという人をよそから呼ぶとか、農業で食べていこうという人は中部地区にコンパクトにまとめて、今、震災の後にまちづくりをしていますよね。東北は。波にさらわれた町をここに学校をまとめて、病院をまとめてということにしているけど、平戸も震災にあったような状況と一緒に思うんですね。長い島を、その特色を北・中・南と分けてというような大きな計画を持ってこないときき言われたように、バラバラお金を使うのではなくて大きな計画があって、農業・漁業は捨てるはならないと思うんですね。平戸市では。海に囲まれて。そこで食べていこうという人を呼び寄せるというような大きな政策を持ってきて。そんなまちづくりを考えていただきたい。

○委員

人を呼ぶ。お金を生むことにお金を投資すべきです。病院、職場、学校。学校をこれ以上なくさないとかね。

○会長

非常に難しい問題ですね。行政の皆さんもどういったいいかわからないような。ひとつ頭の中においていただきたい。是非、今後の計画の中にいくらかでも反映していただきたいと思います。

○委員

今日は、聞き役にまわろうかなと思っていたんですけど、実際に関わってみてですね、結論は先ほど〇〇さんが言われたとおりなんですけど、この危機感を住民がどう持っているのかということで、実際、持ってもらいたいんですが、だから、今、行政が計画立てて、1・2 ページ見たらびしっと、幅広い分野で作られているんですね。おもしろくありませんね。見ると。だから何とか住民が食いつくようなことにしたいということで、動いているのが良く分かります。行政にしかできないこと、住民ができること、住民が全部、行政に頼りっぱなし、言いつぱなしということはやめなければいけないということなんですね。だから人が

いないということは税金が集まらないということなんですね。今、傾いているから、今、何とかしようよというのが、今の平戸の現状だと思います。この危機感をどう持っていけるかということで、さっきふるさと納税の話があったんですけど、これは実際、あてにならないんですね。それを活かしてきっかけを作ることができる。実は、市民病院も努力しているんですね。いろんなレベルで。最初、知らなくて、実は批判めいた感情もあったんですけど。実は、実際、病院に通ったりもしました。いろんな努力もしていることも分かって、市役所なんかいろんなお話をお聞きよって頑張ることが分かって、一番、大変なのは何かということと考えたら、住民自身がその原因を作っていたという。例えば、こんな田舎なので帰ってくるなということがあちこちで言われている。でも、一方では、仕事足りない、無いとか、実際、見ると頑張っている人たくさんいますよね。うまくいっている人、それなりの成果を上げている人もいるじゃないですか。そういう頑張っている人の姿を住民の意見としてまとめていけるのかなということですね。言ってしまえば、住民自身に頼ることがないと地域のことは分からないです。例えば、北部の人が南部のことを分かるかということで、行政に頼んだら、全部、平等にやらないといけないとか、ひいきしたらいけないとかあるから、やはり住民が、私たちの地域は、こんなになっているから、こんなにしていこうやという、本当にそのような素朴なところが崩れていくと思うんですね。そういうところで、今、地域コミュニティというのが動いていると、話を聞いていると、北部はまだという、北部に住んでいるもんですからね。他の地域はいいな。なんだかんだ言いながら、リーダーがいて動いているんだろうなと、平戸の北部は賑やかだけど気付いたら誰もいなかったと、今後、かれていだけと、今、このままだったら、一番危ないのは北部だと思っているんですね。何とかならないかなと考えているんですが、結局は、今、この危機感をどう共有できるかということと、行政にしかできないこと住民にできることを区別、整理・整頓しながら、この計画をまとめていくことが大事だと思っており、だからがんばらばではなくてやらなければならないんです。この危機感を出したいんですね。この中に。これは行政の方々も思っているんですよ。だから住民が俺たちも動こうかというところがないとダメだと思っているんですね。だからそういう風な内容にしていこうと思っているんですね。だから平戸にいる有能な人がいるじゃないですか。そういう人たちが知恵を出し合ってまとめるとうまくいくと思うんですよ。それを情報とかをまとめて啓発するのを行政にお願いしなければいけないところもあるかもしれませんが、まずは、住民、地域住民だと思います。そこを今日会議に出席している人達が言っただく、この会議に行くことを促すことによって汗を流している人達がくるようになるのではないかと思います。先日、ある会の中で、度島の〇〇さんが一生懸命、まちづくりをやっていますが、今、度島でまちづくりをやっている人のこやかな写真を紹介されました。でも、最初、まちづくりをしていたときは苦しい顔だった、何で数年後にその顔がこやかになったかという昔私はこれしていたかというのではなくて、今、何とかしようという人意見を集約していったということなんですよ。そして、もうひとつ言いたいのが、若い人の意見で、高校生も定員割していますよね。平戸に

ある高校に色んな事情もあるかもしれないですけど、協力して欲しいということで、平戸の子供達に平戸の現状を数値的にも教えていって、そして意見を集める機会を作れという要求をしていいんじゃないかと私は思っているんですね。やはり県立なので一歩ひいてしまうところがあるんですよ。やはりそこところは地域にある学校ということで協力をお願いして、高校生も結構、良い意見を言います。中学生も今回、アンケートを読ませてもらいましたが、非常におもしろい意見が出ています。具体的です。文化豊かなとか夢物語ではなくて具体的にこれができるんじゃないかとか。昆虫がいっぱいいるけどこれを活かさないかとか。色んなことを言っています。観光に頼らない部分も言っています。それで賑やかな店を作りたいとか、でも、できるわけないんですよ。愛といますか恋といますか、今の平戸の良さというのがあって、なんで都会のマネをしなければならいんだと、だからすごい感動しますよね。だから、今、私たちが危機感をどう共有するかということを経験することで、この指針というのが出されるんじゃないかなと、そうあって欲しいと思います。

○会長

ありがとうございました。色んなご意見をいただきまして、多種再々で、事務局も色々聞きすぎて、どうしようかなと考えているんじゃないかなと思いますけども、取捨選択をすることができることできないこと、できないことでもできるかもしれないということで、この計画の中に反映していただくように、よういう意味で皆さん方もご意見を申し上げたんだろうと思っておりますので、地域に耳を傾けて意見を総合計画の中に反映させていただくようご努力をお願いしたいと思います。そういうことで、本日の総合計画に関する審議をこれで終了させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(異議なしの声)

○会長

最後に、その他となっておりますが、皆さん方からご意見、ご要望などありますでしょうか。

○委員

その他でよろしいでしょうか。今日は、第2次総合計画についてのご説明だけだったと思いますけども、今日出た意見を全て変更されることは大変だと思うんですけども、各団体の方、各地域から選出された方のご意見です。私もよく行政も知らないでとよく言われます。今までよく言いつばなしできた人間ですからですね。もちろん財政サイドからすれば、平戸市の長期的な展望を組んだ上での計画であったり、予算を組んだりしていると思うんですけども、今日、意見を言われた方々、私もそうなんですけども、一市民のこうしたらいいんじゃない、こう思うよという意見、これが生の意見だと思いますので、人口減の問題とか、

今、お金を本当に投資しなければならないということは、皆さん方、肌身で思っていることだと思いますので、私も、人口、どんどん減るんだと随分聞かされていますけど、だからこそ今、人に投資、物に投資すべきじゃないかなと、行政を知らない人間からの提案なので、そういうところを踏まえて、今日、審議会が出た意見に対しては、前回、意見をいただいた部分についてはこうなりましたという報告を紙でもいいので、できれば出していただければ、そうすれば、今度、地域審議会ですらどうかの意見がスムーズに出ると思いますので、そういった意見を活かしての総合計画にさせていただきたいと思いますので、事務局の方は大変だと思いますけど、本当の生の意見ということで、この場でないと言いたいことも言えないし、反映できないという場にもなっておりますので、十分に検討していただきたいという要望でございます。以上です。

○委員

また、ある訳ですかね。この審議会は、決まった議案に対して意見を述べるという場になるんですかね。今回は、新しい第2次計画をするということで、今度、集まるときってというのは、地域の意見を集計してこうなりますというときに集まるんですか。

○企画財政課長

そうですね。

○委員

でも、1年に1回ですよ。会議は、2年の内に2回ということですよ。

○協働交通政策班長

地域審議会の方は、年に1回開催を予定をしております、ついでにお話をさせていただきますと、レジュメの裏に名簿がありますが、そちらに任期を記載させていただいております。皆さま方の任期については、今年度末をもって、一旦、終了ということになっておまして、来年度、改選の年になっているということでご理解いただければと思っております。以上でございます。

○委員

でも、意見って言っぱなしじゃないですか。次回、報告すべきではないですか。

○協働交通政策班長

次回、また、4月以降、先ほどご意見いただいたことも踏まえまして、企画課が総合計画のたたき台が出来た後に開催したいと思っております。その場で、皆さまから再度ご意見をいただくという手順になろうかと思っております。そういうことでご理解いただければ

と思っております。

○会長

よろしいでしょうか。そろそろ予定時間を超過したようでございますので、これで終了したいと思います。よろしいでしょうか。

(「はい」の声)

○会長

皆さん方には、たくさんのご意見いただきましてありがとうございました。できるだけ先ほど申しあげましたように、皆さん方のご意見を反映いたしますようお願いいたしまして、本日のこの会議を終了したいと思います。ありがとうございました。

(地域審議会終了)

平成 29 年 3 月 29 日

議事録署名人 松口 茂生

議事録署名人 上田 正子